

サハリン事務所現地レポート

2018年8月

(件名) 日本青年会議所(以下:JCI)による「日露青年経済対話」について 報告者:主査 梶山 雅生
8月23日ユジノサハリンスク市においてJCI北海道とサハリン州若手企業家らによる「日露青年経済対話」が開催され、当事務所が運営サポートを行ったので報告する。

本事業はウラジオストク(8/19-21)及びユジノサハリンスク(8/22-24)の二地域において開催された。対話の目的は北海道とロシアの若手企業家が集まり、両地域の特色や現在抱えている課題などについて議論し、それら課題を自分たちのビジネスでいかに解決していくかを両地域で提議し合うことであった。

ユジノサハリンスクでは農業をはじめ建設業や商社、観光業など多種多様な業種の若手企業家が20名以上集まり、5時間に亘って議論を交わした。対話は日露双方から地域の経済に関するプレゼン発表に加え、日露混合チームに別れたグループワーク・結果発表という流れで開催された。

本事業に参加したある若手企業家は「両地域の今後を担う我々が国を超えて一丸となって地域の問題解決に取り組むことが、両地域の活性化だけではなく、両国の友好関係の深化に繋がると信じている。ここで築いた関係を大切にしていきたい」と熱く語っていた。

本事業は今後も継続して行われる予定であり、当事務所も引き続きサポートしていく。



会場風景



グループワーク



集合写真

(件名) サハリンの韓国・朝鮮系住民とその文化について

報告者:主査 阿部 大祐

多民族国家であるロシアは、地域によって文化や言語の異なる民族が共生している。ここサハリンでは、古くからニブヒなどの北方民族が住み、また、戦後、当地に多くの朝鮮半島出身者が残留し、現在でも約3万人が生活している。これにより、サハリンには、ロシアの他地域とは異なる民族的雰囲気を感じている。

8月18日、市内広場において北朝鮮から歌謡グループ、韓国から民族伝統芸能団が招へいされた共同コンサートが行われた。当地報道では、このような共同コンサートは20数年ぶりであるとのこと。昨今の南北首脳会談の結果や友好ムードが、ここサハリンで一つの行事として結実したものようだ。会場には、多くの人々が集まり故国の伝統芸能と歌謡に魅了されていた。また、当地の北朝鮮労働者の姿も見られた。皆、美しい歌声に日頃の疲れを癒していた。

当地では、子供が韓国の伝統民謡を学ぶ学校もあり、イベントで舞踊や音楽を披露している。このようなイベントで目に付くのは、若者や子供たちが民族伝統を担っているということだ。舞踊には現代ポップの要素を取入れて大胆にアレンジも加えられている。また、韓国・朝鮮語を無料で学ぶことができるセンターがあり、小職も現地の韓国・朝鮮系住民たちと学んでいる。

食文化を見ると、各家庭ではキムチが漬けられ、米食の韓国・朝鮮料理となっている。スーパーでは韓国風総菜が売られ、韓国からの輸入食品が並び、現地で受入れられ形を変えつつ独自の食文化を形成している。

サハリンは多民族地域であり、今後も様々な文化が相互に影響を与えて、新たなものを生み出す原動力になっていくであろうと考える。



北朝鮮からの歌謡グループ



在サハリンの韓国・朝鮮系住民の子供たち



当地の韓国・朝鮮料理